

2006年6月1日

高円寺の環境を守る会
警大跡地をまるごと緑と防災の
広場でのこす会
警大跡地に防災公園をつくる会
高円寺北有志
高円寺南5丁目有志

警察大学校等跡地開発に関する

杉並区民への住民説明会の早急な開催、計画の抜本的見直し等を求める要請書

震災時の市街地大火等からわたしたち杉並区民の生命を守るための広場として重大な影響をあたえる警察大学校等跡地の開発に関する跡地の売り払いについて、3月6日に国有財産関東地方審議会答申が出ました。その後、中野区からは中野区広報が町内会で回覧されただけです。そこには、杉並区、中野区との覚書きの「3から4haのまとまった緑地空間を確保」など全く書かれていません。

さらに、その審議会の中で財務省は、地区計画の素案は「私どもの同意が前提条件」、大学の選定は「国にとって最も有利な者を売却の相手方として決定」、地区計画の詳細は「18年度第1・四半期中を目途に中野区が素案を作成」などと明言しています。このようなことについては、私たち杉並区民は、中野区からは何にも知らされておられません。

すでに中野区は、「警察大学校等跡地等中野駅周辺のまちづくりを進めるにあたって、民間のノウハウや創意工夫等を積極的に取込んでいきたいと考えています。そのため民間事業者の方々と意見交換を行う勉強会を設置」するなど、開発に向けたとりくみを始めています。警大跡地の開発で強い影響を受ける杉並区住民には、住民説明会も開催せず、このように一方的に進めるやり方を絶対に認めるわけにはいきません。

私たちがおこなった杉並区高円寺北1丁目・南5丁目のアンケートでは「高層ビル建設は良くない」、跡地利用で一番願っていることは「最大限公園を確保」、従来の計画による防災公園をつくるべきかに「そう思う」が圧倒的多数となっています。

そもそも貴重な公有地は、地域の特性を踏まえ、防災機能の充実、地球温暖化・ヒートアイランド・排ガスなど環境対策、住民の生活と命を重視した、五十年、百年先を考えた計画が住民参加で検討されるべきです。最近を振り返っても、異常気象、数々の災害が、そのことを示していますし、気象庁、国際機関でもそれらを裏付けた研究発表をしております。

私たちは、くりかえし国、関係自治体にたいして、警大跡地の大規模開発の見直しを強く求めています。本日は、中野区にたいして、以下の3点について強く求めるものです。

1. 早急に杉並区住民を対象にした住民説明会を、高円寺中学校等で開催すること。
2. 民間による大規模開発計画を中心とした現行計画を、防災緑地を中心としたものに抜本的に見直すこと。
3. 今後進めようとする地区計画原案の公表手続きは、事前に杉並区住民との合意にとことん努力した上でおこなうこと。

なお、回答は、6月8日までに、高円寺の環境を守る会代表・山本典子宛に文書で回答すること。